

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101604
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム甲府後屋
所在地	〒 400-0045 山梨県甲府市後屋町97-1 電話番号 055-242-0551

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】平成20年8月12日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	19人	常勤	15人	非常勤	4人	常勤換算	12.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要 平成20年8月12日 現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立甲府病院、 しみず歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年9月4日

マンションなどが多い郊外の新興住宅地にあり、歩いて行くことができる距離に商店や福祉センター、学校、自治会館などがあり、生活しやすい環境である。利用者の希望する生活が穏やかに送れるように支援することを、ホームの方針として大切にしている。利用者の表情は明るく、できることを自分の役割として生き活きと行っており、職員からはさりげない支援がされている。医療連携体制を整えており、終末期の看取りも行うこととし、実際に、現在までに二人の利用者を看取っている。日々の実践の中で、気づいた課題には速やかに着手する実行力をもって、熱心な取り組みがされている。ケアの質向上を目指した職員の研修には、特に力が注がれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員の研修については、同一法人運営のグループホーム間で相互交流の実践的な研修を実施することにした。利用者の変化に応じた介護計画の見直しについては、速やかに実際のケアに活かせるような情報伝達のしかたを工夫し実践している。また、市町村との連携については、直接会う機会を多くしようと試みたが十分にはできなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価項目について、管理者や計画作成担当者が評価案を提示し、職員全体会議で意見を聞いた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の主な内容は、利用者の状況、活動状況、活動予定の紹介及び問題点の検討等であった。災害時のグループホームの活用についても意見を聞いた。今後、外部評価結果の報告を行うことを予定している。また、当該家族の協力を得て終末期ケアの実践について紹介し、グループホームに対する一層の理解を深めるとともに、終末期ケアのあり方を考える機会としたいと開催計画を練っているところである。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人本部が年1回実施する家族へのアンケート調査の結果が伝達され、改善点などに対応することになっている。また、ホームの行事などに併せて家族の会を開催し家族の意見を聞く機会としたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、運動会等の行事に参加している。目の前にある小学校の児童の福祉授業を受け入れたり、小学生が遊びに来るなど交流がある。また、ホームのベンチを近隣のお年寄りも気軽に利用できるようにしており、利用者との交流ができています。

2. 調査報告書

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の掲げる理念である「その人らしい快適で穏やかな生活」を「地域の人々とのふれあいを大切に」して「心をこめた親切なサービス」に努めるとともに、「利用者によければそれでいい」との事業所の考え方でケアにあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアに即して、随時、理念を確認し合ったり、毎月の職員全体会議において再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、運動会などの行事等に参加している。また、ホーム前にある小学校の福祉授業を受け入れ、児童との交流を図っており、夏休みに小学生がホームに遊びに来るなど、交流を深めている。その他の自治会活動にはあまり参加できていない。	○	利用者の重度化や職員体制などの理由により、現在は自治会の地域奉仕活動などには参加できていないが、利用者の身体の状態や職員体制を考慮しながら、地域の一員として、地域活動への参加や人々との交流に取り組むことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員全体会議において、職員が意見を出し合っている。外部評価結果の活用については、十分にはできていない。	○	職員全体会議や運営推進会議などにおいて外部評価結果について話し合い、サービス向上に活かして行くことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容としては、利用者の状況・活動状況・活動予定の紹介、問題点の検討などであった。初回の会議以外は、多忙を理由に構成委員の出席状況があまりよくなく、十分な話し合いができていない。	○	外部評価結果の報告や、ホームが取り組んでいる終末期ケア実践の紹介などを話題として取り上げていく計画を練っているところであり、看取りをした利用者の家族を構成委員にお願いすることも検討している。構成委員の出席状況改善に向けての働きかけに再挑戦を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への出席は初回会議に限られ、その後は、問題が発生したときのみの連携になっている。	○	市内同業者と相談しながら市担当者と話合う機会をつくり、市との連携について前進できるようにしたいと考えているところであり、その実現を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などは、随時に電話したり、面会時に報告している。しかし、あまり面会に来ない家族も少しいるので、十分に伝わらない場合もあるかもしれない。預かり金の収支については、利用者及び家族に毎月書面で報告している。	○	利用者と家族とのつながりを保つためにも、面会が少ない利用者家族に対しては、毎月の金銭管理報告に併せて利用者の暮らしぶりや健康状態など近況報告メモを入れる等の工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部が直接、利用者の家族に対するアンケート調査を年1回実施し、その結果が各ホームに伝達され、改善への取り組みが求められる。また、行事等にあわせて家族の会を開催するなどの工夫をして、意見を聞く機会をつくりたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の6割は開設時から継続勤務者であり、比較的離職は少ない。離職者を最小限に抑えるため、管理者は職員のニーズを的確に把握し対応している。離職者がいた場合は、管理者等が代行しながら引き継ぎし、利用者が新規職員に無理なく馴染めるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な都度、管理者が指導している(OJT)。また、月1回の職員全体会には、毎回研修を行うとともに、全職員に情報ファイルを配布し情報提供している。しかし、さらなるケアの質向上のためには、より実践的な研修が必要と考えている。	○	同一法人運営の県内グループホーム合同研修として、他ホームで半年間のスキルアップ研修を2人ずつ実施する予定であり、おおいに期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、同業者との交流はあまり積極的に行っていないが、同一市内のグループホームとの交流の機会をつくりたいと考え話し合っているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に、できるだけ本人が見学し、利用者や職員と一緒に過ごしてみて、グループホームの雰囲気馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毛筆が得意な利用者、職員が使う祝儀袋の上書きをお願いしたり、手仕事が上手な利用者から職員が縫い方などを教えてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で訴えや表情・行動の変化に応じて利用者の思いを推測したり、利用者と話し合うことにより真意を確かめるようにしている。エピソードは引き継ぎノートや個々のメモに記しておく、カンファレンス時に資料として活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスは毎月2回(18時30分～20時頃)実施し、全職員(勤務者以外)で一人ひとりの利用者のケアについて話し合っている。できるだけ家族の意見も反映したいと考えているが、意見が得られないこともある。	○	カンファレンスに家族の参加を促したいと考えている。また、家族の意見を得やすくする方法の工夫も望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期(毎月)、随時(変化時)に見直しを行っている。随時の見直しの場合は、書式に沿った計画書の修正前でも、業務日誌等に引き継ぎ事項として変更点を記し、実際のケアに速やかに反映できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の付き添い、夜の花火見物、稀には証券会社への同行等、できる限り利用者の希望に沿えるように、時には職員の勤務時間をずらすなどの工夫をしながら対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人や家族の希望を聞きながら、かかりつけ医を選択できるようにしている。また、受診時付き添い、かかりつけ医の意見を聴取するなど、かかりつけ医との連携を密にするとともに速やかに家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化した場合の医療体制について説明し、本人や家族の希望を聞いている。また、状態の変化に応じて繰り返し話し合い意思の確認や方針の共有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は丁寧な言葉遣いで接しており、個室への入室の都度、利用者の了解を得ていた。ケア中に使う「失禁」というようなプライバシーを傷つけかねない用語を、他の利用者が聞いてもわからないような言い方に変えたいと話し合っているところである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がどのように生活していたのか、好きなことは何かなどを考えながら、利用者の希望を聞き、穏やかに過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜は調理師が調理しているが、主食、汁物、副菜の一部は、利用者と介護スタッフが一緒に調理している。3つのテーブルに分かれて、利用者と職員と一緒に感想など話しながら食事をしている。片付けも円滑に役割を分担して行っている。週1回は利用者の希望による献立としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日入浴できる。入浴したがるらない場合は、仲良しの利用者から誘ってもらったり、汗をかくような作業をして、入浴したい気持ちになるようにしている。予備の浴室もあり、感染症などの場合にも対応しやすくなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理を得意とする利用者が味付けをし、美味しいといわれて嬉しそうな笑顔を見せていた。食事開始の挨拶をしたり、片付けの分担作業などを自分の役割として粛々と行っていた。職員も「ありがとう」と声をかけて達成感が得られるように支援していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩より買い物など目的がはっきりした外出をするように努めている。買い物は少しずつして、外出の機会を多くするように工夫している。店まで約500メートルを往路20分程度かけて歩くが、利用者の状況により車を利用できるような配慮もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。利用者の出入りはチャイムでわかるようにしており、その都度、同行したり、見守りをするなど利用者の状況に合わせて安全の確保をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器7本を備え、飲料水・食料などの備蓄をしている。火災は防火が一番重要と考えて、火気の始末や電気のプラグ点検を徹底している。避難訓練は必要と考えているがまだ実施していない。	○	消防計画に基づく避難訓練を年2回、消防署の協力を得て実施したいと考えている。できれば、近隣の人々の協力を得て実施できるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食の主食副食に分けて記録している。水分摂取も食事やおやつのほか、自由にお茶やコーヒー等を飲めるようにしている。栄養バランスを考慮して、基本的な献立は法人の栄養士が作成し各ホームごとにアレンジして食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室を含む共有空間全体が清潔に整えられている。居間は、明るく、白木の床やテーブル、クリーム色のソファなど淡い色彩で静かな落ち着いた雰囲気になっており、ゆったりと過ごすことができる。ゲーム用品や手芸用品なども手近に置かれ、キッチンに飲み物などが用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス、小テーブル、洋服掛け、テレビなど使い慣れた家具や趣味の楽器などが置かれ、家族の写真や利用者の作品などが飾られて、一人ひとりの利用者が、ほっとできる場が工夫されている。		